

学校関係者評価報告書

(平成 30 年度)

令和 2 年 1 月 10 日

学校法人国際総合学園

全日本ウィンタースポーツ専門学校

学校関係者評価委員会（議事録）

学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「平成30年度 学校自己報告書」について評価委員より評価していただいた。評価委員には、学校運営状況の資料を配布し、自己評価報告書の内容を説明した上で意見を伺った。

日 時 令和2年1月10日（金）13時30分～14時45分

場 所 全日本ウィンタースポーツ専門学校 校長室

出席者 【委員】

- ・次井 雪雄（新潟県スキー連盟会長）
- ・大澤 実（アウトドアソリューション代表）
- ・関川 弘夫（学校長）
- ・小山 敏行（副校長）
- ・田地野晶男（教務部長） 計5名

次 第 1、開会

学校長挨拶

2、委員紹介

小山副校長より委員紹介、学校関係者評価委員会規定及び目的について説明

3、議題

（1）平成30年度自己評価について

- ・評価項目については、10項目（①教育理念・目標、②学校運営、③教育活動、④学修成果、⑤学生支援、⑥教育環境、⑦学生の受け入れ募集、⑧財務、⑨法令等の遵守、⑩社会貢献・地域貢献）
- ・各項目における評価と課題、改善について報告

（2）平成30年度学校向上アンケート（学生、保護者、職員）について

- ・学校運営に関するアンケート実施の説明。各アンケートの結果や改善・要望等を報告

(3) その他

- ・各委員より意見等を頂いた。

次井委員より

- ・評価は良い。アンケート結果を信じることなく、違った視点で見つめ学校運営に努めなければならない。
- ・入学者が少ない。入学者の心を揺り動かすもの、魅力を発信してはどうか。
- ・卒業生も活躍しているので、ネットワークを密にしてはどうか。

大澤委員より

- ・評価点については、良すぎ。学生、保護者がどう思っているのか、見えない部分を分析しなければならない。
- ・学生数の減少。入学者を増やすために経営、対策、精査、発想の転換をする必要があるのではないか。保護者は、入学（入口）から卒業・就職（出口）が見えるところへ入学させている。
- ・募集学科の編成や検討もよいのでは。社会人は、人生の転換期となる人もいるため戦略的なマーケティングが必要。

関川学校長より

- ・当校の認知度はどうか。

次井委員

- ・競技成績によって変わる。実績があれば話題にあがるが、現在は、話題にならない。

4、閉会

- 資料 ①学校関係者評価委員会規定
②委員名簿
③学校自己評価
④学生意識調査
⑤学校向上アンケート（保護者）
⑥学校向上アンケート（職員）

以上